



日本の標準的戸建住宅は基本的に密集して建っている。それは小規模住宅地開発の影響に因るところが大きいので東京であろうが地方であろうが農家でもない限り余り変わらない。

ここで計画している住宅も東京都杉並区のような密集地であり、周囲の状況は以下の通りである。

南東：現在空いているが近く住宅が建つという話もある。

北東：二階建て住宅であるが隣地境界沿いには庭がある。

北西：4Mの全面道路だがその向こうは二階建て住宅やアパートがぎっしり建っている。

南西：平家住宅であるが境界に極めて接近している。

現代住宅は家族への煩わしさから広いとはいえない限られた空間を無理やり細分化して個室を造ることに重きがおかれている。しかしこれではコミュニケーションを阻害することは言うに及ばず人間関係に極度の緊張感をもたらしてしまう。何故なら個室は共用空間に対し無理やり面する様に計画されているので、個室から出た途端に家族に向き合うこと強要される為である。また、更に個室を含め各室からの景色は隣家の裏壁が見えたり最悪の場合隣人と鉢合わせすることさえあるのでとても気が休まらない。

そこでこの家では「背の高い塀」や「吹抜け」を注意深く配して外部からの干渉を避け、且つ外部（空）への広がりを獲得し、接していても煩わしさを感じない人間関係を築ける様に計画している。具体的には次の通りである。

1. 室内が閉鎖的にならないように吹抜を有効に活用し連続した伸びやかな空間を実現している。
2. 希少な屋外空間を最大限に利用する様に心がけている。敢えて高い塀を設け近隣からのプライバシーを確保しているので開口部を大きく取ることができ、屋外空間を室内の延長に計画している。このため数字には表せない広がりや快適が獲得できた。
3. 1、2より部屋越しに屋外に繋がっているために閉ざされた部屋同士の関係に見る様な必要以上の緊張感や格段に軽減されコミュニケーションを育む住環境が整っている。
4. この住宅は玄関・水廻りの2世帯住宅である。例えば2F北角のテラスは、2、3、を具体化した部分の一つであるが、1階老夫婦世帯と2階若夫婦世帯を結び役割も果たしている。

